令和 8 年度（第 25 回）橿原市生活安全推進協議会　会議録

日時：令和 8 年 7 月 8 日（水）午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分
場所：橿原市保健センター　4 階　視聴覚研修室
出席委員：10 名（別紙「令和 8 年度橿原市生活安全推進協議会席次表)」による。
事務局：6 名

議　事：1. 安全安心カメラの設置について
　　2. 青パトへの補助について

会議録
＝委員紹介＝
＝関係職員紹介＝
＝資料確認＝

主要な論点

１．安全安心カメラの設置について
- 提案はクラウド型リアルタイム録画システムで、インターネット経由でパソコン・スマートフォンから映像確認が可能。警察と協定を結び、緊急時に即時閲覧できる体制を構築。
- 設置台数は市内全域で 30 台、主に交差点、住宅街の出入口、駅ターミナル等の死角を埋める位置。プライバシー配慮として個人・民家にカメラを向けない。映像は 30 日間保存。
- 事業費は 7 年間で約 4,250 万円（整備費＋維持管理費)。設置期間は 2026 年 10-11 月に事業者選定、12-2 月に設置、3 月運用開始。2 月中に警察との覚書締結を予定。
- 期待される効果は行方不明者の早期発見、犯罪・事故の迅速解決・再発防止、街の安全イメージ向上。
- PTA・自治会からは既存の防犯カメラとの連携、学童の通学路への設置、カメラの角度調整や映像保存期間の拡大など具体的な意見が出された。
- 既存カメラ（学校・民間事業者等）との統合マップ作成要望が多数。
- 市内の民間事業者のカメラも把握し、利用してはどうかとの意見が出された。

２．青パトへの補助について
- 現行制度は車両に設置する青色回転灯 1 台につき 3 万円の補助。高齢化に伴うボランティアの継続が難しく、資金・燃料・装備の補助が不足しているとの指摘。
- 補助金の対象拡大（燃料費、備品購入、車両更新など）や、補助金支給の継続性・増額の検討を求める声が多数。
- 既存の 11 団体の活動実態が不透明であるため、活動状況の調査・情報共有が必要とされた。
- 県下で過去に交付された補助金はほとんどなく、現在は自己負担が中心。補助金制度の見直しと、長期的な運営支援策の策定が課題。

（今後の課題）

1. カメラ設置場所の最終決定と PTA・自治会からのフィードバック反映。
2. 既存カメラと新設カメラの統合マップを作成し、関係者に配布。
3. 予算案を 9 月定例会で提出・可決し、事業者選定・契約手続きへ移行。
4. 2 月までに警察との覚書を締結し、運用開始に向けた手順を整備。
5. 設置後の効果測定を実施し、追加設置の可否を検討。
6. 青パトロールの活動実態調査と、補助金対象範囲・金額の見直し。
7. 高齢ボランティアの代替確保や、燃料・維持費等の継続的資金調達方法を検討。

令和８年度橿原市生活安全推進協議会席次表

	会長 奈良女子大学 名誉教授　　瀬渡　章子	
副会長 橿原地区保護司会 会　長　　松村　惠由		橿原商工会議所 専務理事　　中村　吉代茂
橿原市自治委員連合会 会　長　　桝谷　佐千代		橿原市地域安全推進委員 西岡　一碩
橿原市自治連合会 代表者　　奥村　一夫		橿原市民生児童委員協議会 会　長　　山本　邦彦
橿原警察署生活安全課 課　長　　金井　大典		橿原市 PTA 連合会 事務局次長　中川　有規子
（欠席） ~~橿原市倫理統制監兼~~ ~~危機管理参事　朝山　昭彦~~		橿原市教育委員会事務局 学校教育課長　鶴田　剛史
		（欠席） ~~橿原警察署少年補導員協会~~ ~~会　長　　好川　嘉則~~

マイク
竹田

マイク
堀部

関　係　職　員　及　び　事　務　局

市民協働課課長補佐 堀部　美和	総務部副部長 大鳥　清治	市民協働課長 榊　啓太	市民協働課主幹 當座　雅之
	市民協働課 生活安全係主査 竹田　恵昭	市民協働課 生活安全係長 西家　功補	

傍　聴　席　（椅子５脚）